

縣陵の学びを支援する会 活動報告

縣陵の学びを支援する会
高38回 浅井 俊貴



探究科発足の声とともに活動を開始した当会も、丸4年を迎えました。
活動を通じて分かったことをお伝えしたいと思います。

- 1、縣陵生は非常に有望な可能性をもった15歳から18歳の集団である。
- 2、一方で、堅実な将来像を描く人が多い。
- 3、堅実な将来を描くあまり本来持つ無限の可能性に気が付きにくい。
- 4、外的な要因として、東京一極集中は一層加速している。

同窓会員の皆様はお気付きと思いますが、最初から堅実な将来像を描き一心不乱にそこを目標にしていくことは全く問題ではなく、現実として高度にデジタル化が進む現代社会において、知識としての世界だけでなく、自ら足を運んで飛び込む本当の世界の広さや多様性は誰しも若いうちには経験するべきと口をそろえるのではないのでしょうか。

当会は、留学をはじめとして

現実の社会との連携を通じて後輩たちの可能性を大きく羽ばたける環境を創造しようとして活動しております。

現役生徒の親世代よりも年長の社会人たる私たちが先輩として出来ることを出来る限り行い、一人でも多くの後輩が大きく羽ばたいてくれることを心から願っております。私は現在54歳ですが、高校3年次の同世代人口は180数万人おりました。現在はいとうとわずか100数万人です。当時と変わらぬ教育予算であ



ったら一人当たりの教育費は大きくできたはずですが、現状ではそうでもないようです。
多様化し複雑化の増す現代社会において教育に勝る投資はないという結論は決して急ぎ過ぎではないと思えてなりません。母校においても人的サポートが不足しているようです。強固な連携を誇る県陵同窓会の皆様で協力していただらどんなに素晴らしいかとご協力をお願い申し上げます。

2020年の活動は、新型コロナウイルス対策のため大幅に縮小して実施いたしました。



恒例となった「進路講義」は動画配信によるオンデマンド形式をとりました。

探究学習の特別表彰については今回も19もの団体・企業から協賛をいただき表彰式は校内動画放映になってしまいましたが無事2回目を実施出来ました。

受賞者だけでなく、応募してくれた生徒の皆さんの励みになっていると実感を得られました。

次世代の育成には非常に多くの障壁も見えてまいりましたが、根気強く活動を続け県陵だけにとどまらず、中信地区の高校生の才能が大きく開花する支援を行っていきたく思います。



白虹会
2年 竹樋好香